

平成9年度水稲・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成9年度水稲関係生育調節剤試験成績検討会は、平成9年12月10日、池之端文化センター（東京都台東区池之端）において、同畑作関係生育調節剤試験成績検討会は、平成9年12月8日、植調会館会議室（東京都台東区）において開催された。

水稲関係生育調節剤試験は、健苗育成を目的としたもの8剤（作用性7剤のべ10点、適用性5剤のべ24点）、登熟向上を目的としたもの1剤（作

用性1剤のべ2点）、倒伏軽減効果を目的としたもの2剤（適用性2剤のべ16剤）について成績の報告および検討が行われた。

また、畑作関係生育調節剤は、ばれいしょ・小豆・菜豆等を対象として、合計3剤（作用性3剤のべ6点、適用性1剤のべ4点）の検討が行われた。

なお薬剤別の判定結果および実用化薬剤の使用基準は、次表の通りである。

平成8年度 水稲・畑作関係生育調節剤試験供試薬剤および判定・使用基準一覧

1. 水稲関係

A. 健苗育成等

薬 剤 名 [委託会社名]	有効成分および含有率(%)	試 験 目 的	判定	実用化に対する処理法	継続の内容
1. KUS-1 フロアブル [クミアイ化学工業]	海藻エキス ----- 35% フミン酸 ----- 35%	[適用性] 低温時の健苗育成と活着促進	継		・効果の発現条件の検討
2. KWG-601 粉末 [協和発酵工業]	5-アミノレブリン酸 ----- 95%	[作用性] 種子処理または播種時の処理により発根量及び新根量を促進させる			・処理法処理濃度の検討
3. NNIF -9312 粒 [日本農薬・ローヌ・プーラン油化アグロ]	イソプロチオラン ----- 12% フィプロニル (殺虫剤) -- 1%	[適用性] 根の伸長及び発根促進 (健苗育成)	継		・効果の検討

薬 剤 名 [委託会社名]	有効成分および含有率(%)	試 験 目 的	判定	実用化に対する処理法	継続の内容
4. S-327D 液 [住友化学工業]	ユニコナゾールP ---- 0.025%	[作用性・適用性] 育苗期の徒長防止	実 ・ 継	地域:寒地 催芽前15~24時間種子浸漬処理(種子消毒) 希釈倍数 250倍 播種量 75~400ml/畝	・効果の年次変動
5. SHT-911 水溶 [ABA研究会] (事:東レ)	(S)-(+) -アブジン酸 ---- 1%	[作用性] 移植水稻での健苗育成 ・処理濃度等の検討			・効果の検討
		[作用性] 移植後の苗の耐冷性の検討			・効果の検討
6. SHT-911 液 [ABA研究会] (事:東レ)	(S)-(+) -アブジン酸 ---- 15%	[作用性] 育苗期での葉面散布による耐冷性付与の検討			・効果の検討
7. TNZ-303 液 [タマ生化学・日本ゼオン]	ブラシのステロイド ----- 30ppm ジャスモノイド ----- 30ppm	[適用性] 直播における苗立の向上	継		・播種深度及び播種後の水管理による効果変動の検討 ・低温条件下での効果検討
		[作用性] 発芽・発根・初期生育の促進作用の検討	継		・処理濃度の検討 ・年次変動の検討
		[適用性] 移植後の活着と初期生育促進			
8. NOK-1 液 [NOK]	E. cloacae No. 11 -5株培養液 主要成分 トリプトファン, インドール酪酸, 3-インドールセレート	[作用性] 種子浸漬処理後の生育に対する効果の検討			・効果の検討 (処理濃度及び処理方法)

B. 登熟向上等

薬 剤 名 [委託会社名]	有効成分および含有率(%)	試 験 目 的	判定	実用化に対する処理法	継続の内容
1. SHT-911 液 [ABA研究会] (事:東レ)	(S)-(+) - アブシジン酸 ---- 15%	[作用性] ・開花期前後の葉面散布による収量向上 ・幼穂形成期 (出穂14~21日前) 散布による耐冷性付与(不稔軽減)			・効果の検討

C. 倒伏軽減等

薬 剤 名 [委託会社名]	有効成分および含有率(%)	試 験 目 的	判定	実用化に対する処理法	継続の内容
1. CG-186 (顆粒) 水溶剤 [ノバルティス]	トリネキサバック エチル ---- 5%	[適用性] ・処理時期拡大 ・年次変動の検討 ・未実施場所での検討 ・適用薬量の拡大 ・散布水量の拡大 ・大規模圃場における 効果確認	実 ・ 継	全面茎葉散布 出穂前10~ <u>2</u> 日 <u>3</u> ~4g/a (散布水量:10ℓ)	・効果の年次変動 ・少水量散布の検討 ・実規模圃場での確認
2. KUH-833 F① フロアブル [クミアイ化学工業]	プロヘキサジオン Ca ----- 1%	[適用性] 年次変動の確認	実 ・ 継	<前年通り> 全面茎葉散布 出穂前10日~2日 薬量 7.5~10ml/a (散布水量:2.5~10ℓ)	

2. 畑作関係

薬 剤 名 [委託会社名]	有効成分および含有率(%)	作物名	試 験 目 的	判定	実用化に対する 処理法	継続の内容
1. DNK-01 水溶 [電気化学工業]	シアナミド ----- 14%	ばれい しょ	[作用性] 枯凋促進効果及び 品質、収量への影 響について	継		・適用性に移行可
2. JT-101 乳 [日本たばこ産業]	ペラルゴン酸 ----- 52%	小豆	[作用性] 収穫期の黄化促進	継		・成熟期処理のみ適 用性に移行可
3. JT-101 乳 [日本たばこ産業]	ペラルゴン酸 ----- 52%	菜豆	[作用性] 収穫期の黄化促進	継		・成熟期処理のみ適 用性に移行可
4. FB-2 液 [ゼネカ]	ジクワットジプロ ミド ----- 30%	ばれい しょ	[適用性] 収穫いもの萌芽性 について	実	[枯凋促進効果] ・茎葉黄変期 20~30ml/a 散布水量 10ℓ 注)高温が続く場合の 散布や乾ばつになり やすい土壌での使用 は避ける。 寒地のみ。	

新刊

SHIBUYA INDEX

(英語版)

—Index of Pesticides— 1996年版

渋谷成美・ほか／編集 A4判 850頁 定価30,000円(税込)

1978年に第1版を発行して以来、簡便に使える農薬リストとして知られていた本書の第7版。世界の農薬すべてを網羅し、一般名、商品名、コードナンバー、メーカー名、構造式、適用場面、特性を記載。単剤3,300余種を構造別に整理し、関連化合物の検索も容易にできる。また、混合剤で4,100余種も掲載。

— 呈内容見本 —

全国農村教育協会

〒110 東京都台東区台東1-26-6(植調会館) 電話/03-3833-1821 FAX/03-3833-1665